鳴門市の野鳥生息状況

鳥類班（日本野鳥の会徳島県支部）

東條　秀徳*　臼井　恒夫　笠井　正　関　憲二　高井　正明　前田　勝重
三井　義雅　三ツ井政夫　三宅　武　森　芳雄　吉成　宏行

要旨：四国の北東端に位置する鳴門市全域を調査範囲とし、2014 年 9 月～ 2016 年 9 月の約 2 年間観察し，18 目 50 科 193 種の野鳥と 5 種の外来種・野生化種鳥類を確認した。この内，徳島県および／または国のレッドリスト種は 56 種であった。広範囲の山林でフクロウの生息を確認した。市内の溜池などで，徳島県全体の約 4 割と多数のマガモとコガモを確認した。市南部低地に拡がるハス田ではシギ・チドリ類 22 種を確認した。播磨灘では冬から初春にシロエリオオハムの群れを確認した。鳴門海峡から連なるタカ渡りを内陸部山地で確認した。野生哺乳類 8 種を確認した。

キーワード：鳴門市，野鳥，ハス田，タカ渡り，鳴門海峡

1．はじめに

鳴門市は，四国の北東端に位置する陸地面積 135.66km² の自治体である。市の北部は山地が播磨灘に面した岩石海岸，東部は紀伊水道に面した砂浜海岸で沖には離岸堤が設置されている。両海岸の間に位置する鳴門海峡の対岸には淡路島が近接している。市の中央を東西に阿讃山脈東端が連なり，西から藍染山（標高 414m），大麻山（538m），日ノ丸山（510m），天ケ津峰（434m），大代山（354m）などの山々が聳えている。山地のほとんどは樹木に覆われ，林野面積は市面積の過半を占める 75.4km² で，その 8 割近くが天然林である。天然林は，かってはアカマツ・クロマツ群落が優勢であったが松枯れが進み，現在はウバメガシやアラカシ，コナラなどの広葉樹二次林が優勢となっている。山地の谷間や山麓には小規模な溜池が点在している。市の南部は阿讃山脈から流れくだる小河川が形成した扇状地と旧吉野川沿いの低湿地が拡がり，東部の紀伊水道沿いは砂州・砂丘地形となっている。北部は小河川沿いに平地が散在し，農耕地が開設されているが，湿性草地となった耕作放棄地も多い。

市南部の低湿地水田では水稲あるいはれんこんが栽培され，砂丘地帯等の畑地ではかんしょ（さつまいも）や大根，らっきょうが栽培されている。また山麓や谷間および平地に梨畑も多く見られる。なお，鳴門市の耕地面積は約 19km² で，その約 1/2 が稲またはれんこんの水田，残り 1/2 がかんしょや大根および果樹などの畑である。

調査期間中，多数の太陽光発電所が，山中や耕作放棄地に開設された。

集落は，北部では小河川河口周辺平地に，東部では塩田跡埋め立て地などの平地に，南部では山裾の旧街道沿いや自然堤防上に形成されている。

鳥獣保護区等としては，大毛島，高島，ウチノ海，小鳴門海峡等を含む内海鳥獣保護区（1,440ha），大麻比古神社や大麻山南東斜面を含む大麻山鳥獣保護区（310ha）および妙見山，イワシ山，ボラ山等を含む妙見山鳥獣保護区（170ha）の 3 ヶ所が設定されており，加えて，2015 年 11 月から，徳島県により大麻町南部の水田地帯に鳴門コウノトリ鳥獣保護区（490ha）も設定された。さらに市の南部・東部の平野部や島

＊　770-8025　徳島市三軒屋町外 24 － 77　088-669-3750

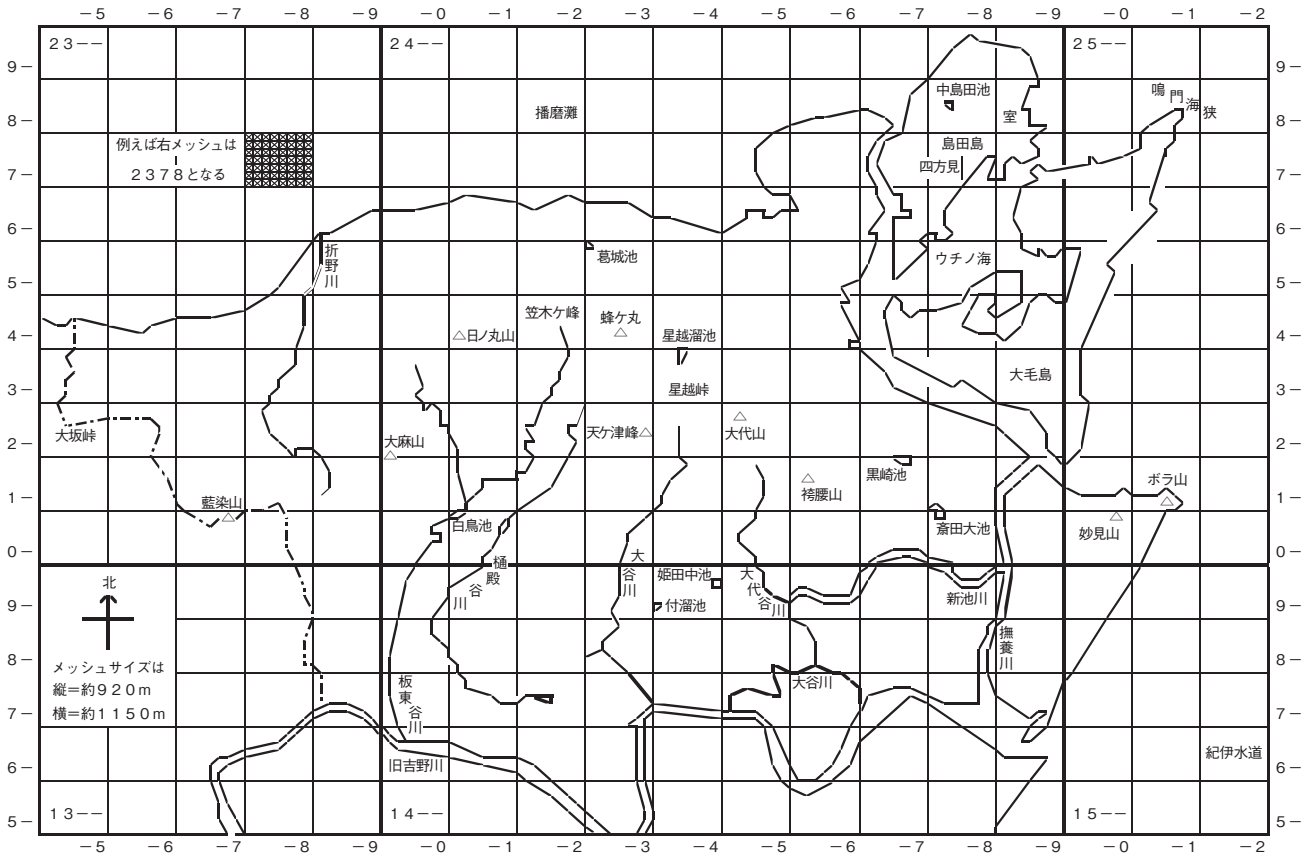

図１　調査用メッシュ地図概略

田島および東部海面など広範囲（8,315ha）が特定猟具（銃器）使用禁止区域に設定されている。

調査範囲は鳴門市全域とし，海上も陸地から視認できる範囲を対象とした。複数箇所では調査定線・定点を設け定期的な観察を行った。調査期間は2014年９月～2016年９月上旬までの約２年間。双眼鏡，望遠鏡，カメラ等を使い見聞きして確認した種と個体数を記録した。記録に際し，正確な地名表記が困難なこともあるため，都道府県別メッシュマップ（環境庁，2001）の３次メッシュコードの下４桁を併記した（**図１**）。対象メッシュ数は170となった。なお，測地系は平成24年から世界測地系となったが，今回使用のメッシュマップは旧の日本測地系である。

２．山地・森林の野鳥

１）定線調査

大麻町大谷と北灘町櫛木の間の星越峠（標高136m）から西へ天ケ津峰まで続く牧道約3.7kmを調査定線として，2014年９月～2015年８月まで両側25mを計数範囲とするラインセンサスを毎月１回早朝に実施した（A）。また，大麻山山麓（標高約40～120m）では，日本野鳥の会徳島県支部が，毎月１回，午前８～10時の間に探鳥会（野鳥観察会）を実施している（B）。Aの植生は枯れ松が目立つ混交林二次林で，コース後半の牧場跡は野草や灌木が生い茂っている。コース前半の造成台地には太陽光発電設備が整備された（**写真１**）。Bでは大木の多い社叢，果樹園，混交林二次林，渓流などが混在する環境で，こちらでも畑地に太陽光発電設備が整備された。2014年９月～2015年８月までの１年間のAとBの観察記録について，出現種とその頻度を比較した（**表１**）。Aが48種，Bが54種とBの方が多数種を記録したが，これには水辺環境に生息するカモ類やカワセミ，農地環境に生息するムクドリ，スズメ，セキレイ類の合計10種が寄与している。森林生息性の野鳥に限れば逆転するが，大きな差はなくなり，約８割の種が共通していた。これは、標高差があるといっても，ともに暖温帯に属する近隣の山地森林

表 1　天ケ津峰と大麻山の確認種と確認回数

種　名	天ケ津峰	大麻山
ヤマドリ	3	
キジ		5
マガモ		2
カルガモ		1
コガモ		2
キジバト	7	11
アオバト	3	
カワウ		2
アオサギ	1	6
ホトトギス	3	1
ミサゴ	5	2
ハチクマ		2
トビ	9	8
ハイタカ	4	3
オオタカ	1	1
サシバ		4
ノスリ	2	5
フクロウ	1	
アオバズク		1
カワセミ		4
アリスイ		1
コゲラ	10	10
アオゲラ	6	3
ハヤブサ		1
サンショウクイ		1
サンコウチョウ	1	1
モズ	3	9
カケス	6	
ハシボソガラス	3	11
ハシブトガラス	12	12
ヤマガラ	12	12
シジュウカラ	10	7
ツバメ	4	4
コシアカツバメ	1	
ヒヨドリ	12	12
ウグイス	10	11
ヤブサメ	2	
エナガ	10	4
エゾムシクイ	1	
センダイムシクイ	3	2
メジロ	12	11
ムクドリ		3
シロハラ	7	5
ツグミ	4	5
コルリ	1	
ルリビタキ	3	3
ジョウビタキ	6	6
エゾビタキ	1	
コサメビタキ	2	1
キビタキ	5	3
オオルリ	4	
スズメ		10
キセキレイ		3
ハクセキレイ		5
セグロセキレイ		10
ビンズイ	2	1
カワラヒワ	8	9
マヒワ	1	
ベニマシコ	1	
ウソ	3	2
シメ		1
イカル	3	4
ホオジロ	12	11
ミヤマホオジロ	1	1
アオジ	6	5
クロジ	1	2
種類数合計	48	54
コジュケイ	6	4
ドバト	1	1

写真 1　尾根高台の太陽光発電所

写真 2　クヌギの横枝に停まるノスリ

であり，その主要植生も混交林の二次林であることなど共通要素が多いことによる結果と思われる。

2）猛禽類

森林生態系の上位に位置する猛禽類のタカ科やフクロウなどが市内山林で観察された。

タカ科の鳥は別項の春・秋の渡り時期に多数観察されるほか，ハチクマとサシバについては，これまでに市内での繁殖が確認されている。今回調査では，営巣は確認できなかったが，両種とも 2015 年，2016 年の夏季の生息を確認した。オオタカも冬鳥として生息するほか夏季の生息も確認した。ハイタカとノスリ（**写真 2**）は冬鳥として生息していた。

夜行性のフクロウは，主に夜間のさえずりにより生息状況を調査した。島田島や高島を含む広範囲の山林（メッシュ数で合計 17 メッシュ）で生息を確認した。

魚を餌とし海岸の断崖に営巣するミサゴは，山地の樹上にも営巣する。今回調査では，大麻町と大津町の山林尾根で各 1 ヶ所，マツの樹上での営巣を確認した。この内，大麻町の巣は 2015 年・2016 年の 2 年連続で使用されていた。

3．農耕地の野鳥

1）定線調査

鳴門市の農耕地の主要な環境として，内陸水田地と海浜畑作地を選定し，比較調査を行った（**表 2**）。前者として大麻町板東の水稲田･ハス田地帯（C）に，後者では里浦町粟津のかんしょ･大根畑地帯（D）に，延長約 1km 観察定線を設定し，両側各 50m を計数範囲とするラインセンサスを毎月回実施した。計数範囲外および復路でのみ確認した種も当該地の記録とした（**表 2** で 0 と示した）。C では農地は方形に区画され，その間を水路が流れているが，畦や水路壁の多くは土盛り石組みなどであり，水路土堤にヤナギなどの樹木が散在し，水路や休耕田にヨシ群落が形成されていた（**写真 3**）。D では全域で夏作としてかんしょが，一部で冬作大根が栽培されている。コースに沿って南北にコンクリート擁壁の深い水路があり，水路沿いにはヨシ群落が形成されている。両地域とも建物や上空を遮る電線がほとんどない開放空間が維持されている。C では 2014 年 9 月～ 2015 年 8 月まで，D では 2014 年 11 月～ 2016 年 8 月まで観察したが，ここでは，C・D とも開始から 1 年間の記録を比較した。調査前には，環境が比較的単純な D では，生息する種や個体数が少ないと予想していたが，結果は種数・個体数ともそれほど大きな差はなかった。種数では D の深い水路や水辺のヨシ群落を訪れる水鳥や水辺の種が多かったことがその要因であった。個体数の差は C の水稲田に集まるスズメが多数であったことが主な要因で，C と D のスズメ個体数差 222 羽を除くとほぼ同数となる。C･D 共通して，種数・個体数とも多数観察されたのはハシボソガラス，ヒバリ，スズメ，ハクセキレイ，カワラヒワの 5 種で，これらは徳島県平野部の農地で普通に生息する留鳥である。

2）ハス田

大麻町と大津町の低地に広がるハス田は，れんこん生産量全国 2 位の徳島県における主産地であるとともに，サギ類，カモ類，シギ・チドリ類，クイナ等多くの水鳥にとって重要な生息環境となっている。この内，鳴門市内のハス田で確認されたシギ・チドリ類はタゲリ，ケリなどチドリ科 6 種，セイタ

表 2　内陸水田地帯と海浜畑作地帯の比較

種　　名	確認回数		延べ羽数	
	大麻	里浦	大麻	里浦
キジ	2	4	0	4
ヒドリガモ		1		3
マガモ	2	2	6	41
カルガモ	2		6	
ハシビロガモ		2		7
コガモ	1	7	0	33
ホシハジロ		2		0
カイツブリ		1		0
キジバト	7	5	6	5
カワウ	1	7	0	23
ゴイサギ	2		5	
アマサギ	4		34	
アオサギ	7	8	10	16
ダイサギ	9	5	58	7
チュウサギ	3		4	
コサギ	1	3	1	1
ヒクイナ	2		0	
バン	2	3	8	2
タゲリ	3		2	
ケリ	11		65	
コチドリ	3		7	
タシギ	7	1	22	0
クサシギ	1		0	
イソシギ	1	7	1	8
タマシギ	1		0	
セグロカモメ		3		3
ミサゴ		2		1
トビ	2	9	0	11
オオタカ	2		1	
サシバ		1		3
コミミズク		1		1
カワセミ	5		2	
チョウゲンボウ		1		1
ハヤブサ		1		0
モズ	4	3	2	3
ハシボソガラス	12	11	61	28
ハシブトガラス	6	10	1	82
ヒバリ	12	12	64	121
ツバメ	6	6	24	5
ヒヨドリ	5	3	0	4
ウグイス	3		1	
メジロ		1		4
オオヨシキリ	3	4	9	13
セッカ	5		5	
ムクドリ	5	7	10	17
ツグミ	4	5	20	19
ジョウビタキ	1	3	0	6
イソヒヨドリ		2		
スズメ	12	9	279	57
ハクセキレイ	10	9	36	44
セグロセキレイ	4		4	
タヒバリ	6		35	
カワラヒワ	9	7	106	63
ホオジロ	4		5	
ホオアカ	2		3	
オオジュリン	2	2	6	4
確認種数	44	38		
総個体数			909	640
ドバト		4		11
コウノトリ	2		0	
カラス sp.		2		4

写真 3　大麻町板東の水田地帯

写真 5　ハス田を歩くケリ

写真 4　ハス田で餌を探すセイタカシギ

写真 6　つきだめ池のカモの群れ

カシギ科 1 種（**写真 4**），タシギ，アカアシシギなどシギ科 14 種，タマシギ科 1 種の合計 22 種であった。シギ・チドリ類の多くは北半球高緯度地帯で繁殖し，赤道地帯から南半球に渡り越冬する。県内には渡りの途中に，休息と栄養補給のため滞在する。ケリ（**写真 5**）とタマシギは鳴門市でも繁殖し，タゲリは冬鳥として渡来する。県内のハス田におけるシギ・チドリ類の生息記録は，阿波学会調査では板野町（増谷ほか，1988）16 種，松茂町（増谷，1991）の 25 種，北島町（東條，1996）の 12 種，藍住町 5 種（東條，2006）がある。また，松茂町中喜来地区と徳島市川内町のハス田での 5 年観察では前者で 26 種，後者で 33 種が記録されている（徳島県農林水産部林業振興課ほか, 1997）。これらは, シギ・チドリ類フライウェイの途中に存在する吉野川下流域のハス田が，彼等にとって重要な環境であることを示唆する生息記録である。

4．溜池

阿讃山地山麓や山間に散在する溜池や砂防ダム湖は，小規模だが，冬季に多数のカモ類が訪れる。特に姫田中池，斎田大池，つきだめ池（**写真 6**），白鳥池などには多数が飛来する。姫田中池では，環境省の鳥インフルエンザ対策事業として定期観察も実施され，多数時には，1.5ha の狭い池にマガモ，コガモなど合計 1000 羽超以上が集まることが知られている（環境省, 2016）。このような池の存在も有り，鳴門市周辺の水辺には，徳島県に渡来するマガモおよびコガモの 4 ～ 5 割が集まる（**表 3**）。

表 3　鳴門市のカモ類の渡来状況（2015 年 1 月）

	総数	マガモ	コガモ	その他
徳島県（A）	20,751	4,660	2,097	13,994
鳴門市（B）	3,933	2,044	868	1,021
市内溜池（C）	1,652	1,278	235	139
B ／ A（%）	19.0	43.9	41.4	7.3
C ／ B（%）	42.0	62.5	27.0	13.6

環境省「ガンカモ類の生息調査の成果物の提供ページ」（www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu）を基に筆者作成

5．集落の野鳥

スズメ（**写真 7**）やツバメは昔からヒトの生活に

写真 7　休耕田ブッシュに群れるスズメ

写真 8　青葉のクスノキに停まるアオバズク

身近な野鳥である。ともに主として家屋に営巣し，巣立ち後は藪やヨシ原で集団塒（ねぐら）を営む。両種とも市内各地の集落や農地で普通に生息していたが，営巣確認は少なかった。特にツバメについては，2015 年 5 月 20 日に大麻町板東で商店や民家が連なる延長約 600m の街路を往復して営巣調査し，13 巣を認めたが，営巣中であったのは 1 巣のみであった。塒では，大谷川の中州ヨシ原で 500 羽規模の，大津町吉永の休耕田ヨシ原で 50 羽規模のツバメの塒を確認した。スズメでは，鳴門駅西側街路のケヤキ数本を約 2000 羽が塒としていた。ツバメ科のコシアカツバメも夏鳥として渡来し主にコンクリート建造物に徳利状の巣を架ける。近年県内では減少傾向であり，鳴門市でも，北灘町と瀬戸町の海岸沿いで巣を見かけたが多くは古巣であった。

市内の集落の中や外れには，クスノキやエノキ，ムクノキなど大木の社叢を持つ神社も多い。平野部および山麓の複数神社で，小型のフクロウ科の夏鳥アオバズク（**写真 8**）の生息を確認した。

6．海岸・海上の野鳥

鳴門市は県内自治体で唯一瀬戸内に面しており，その特徴的事象として，冬から早春のシロエリオオハム（**写真 9**）多数渡来がある。本種以外にもカンムリカイツブリの 100 羽超の群れや，徳島県では観察例の少ないアカエリカイツブリやオオハムも混在することがある。これらの水鳥は，餌となる小魚の群れを求め渡来しているものと考えられる。かつて瀬戸内海で実施されていたアビ漁は，シロエリオオハムなどアビ科の水鳥を目印とした漁法であった。

鳴門町沖と里浦町沖の岩礁には，冬季，ヒメウやウミウの群れが見られた。これについては 40 年前に発行された鳴門市史にも，「大磯の鵜」として記載がある（鳴門市史編纂委員会，1976）。

紀伊水道に面した海岸では，個体数は少ないが，調査期間中にシロチドリやミユビシギ（**写真 10**）などシギ・チドリ類 10 種を確認した。なお，シロチドリについては繁殖も確認した。

7．タカの渡り

多くの野鳥と同様，タカ類の多くも繁殖地と越冬地の間の移動（渡り）を行う。その渡り飛行は，上昇気流を利用して高空に舞い上がり，その後滑空して移動する。そのため，上昇気流のできやすい条件の天気（晴れ）・時間帯（日中）や地形（山上，岬，島）に多くの個体が集中し，これらを結ぶ渡りルートの存在が知られている。鳴門海峡もその一つで，約 40 年にわたる観察の歴史があり（日本野鳥の会徳島県支部，2003），近年は県外からの観察者も交え春・秋の長期観察が実施されている。今回調査では，これまで観察記録が乏しかった鳴門市内陸部でも観察した。鳴門ルートで多数観察されるタカは，サシバ（**写真 11**），ハチクマ（**写真 12**），ノスリ，ハイタカの 4 種である。渡りの方向は，主に日本で繁殖する前 3 種は，春には西から飛来し東へ，秋には東から西へ飛行する。一方，大陸あるいは朝鮮半島から越冬目的で日本へ飛来すると考えられているハイタカは，秋に西から飛来し東へ，春には東から飛来し西へ飛去する。鳴門における秋季の渡りピークは，サシバとハチクマは 9 月下旬と早く，ノスリと

ハイタカでは遅れて 10 月下旬に迎える（**表 4**）。一方，春季のタカ渡りピークは，ノスリとハイタカが先行して 3 月に，次いでサシバが 4 月上旬に，ハチクマが 5 月中旬である（**表 5**）。

内陸部の秋季観察は，2014 年には星越峠の西尾根で，2015 年はその西北約 2.3km に位置する笠木ヶ峰（**表 6**）で実施した。鳴門海峡の鳴門山や四方見の多

表 4　鳴門山の 2015 年秋季タカ渡り観察記録

調査期間：9 月 5 日～ 11 月 15 日

観察日数			観察羽数				
9 月	10月	11月	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ハイタカ	その他
14	10	6	2387	191，△1	632 △2	40 △140	48 △13
初認　月日			9/12	9/12	9/12	10/18	
初認日羽数			45	11	6	△7	
最多　月日			9/23	9/20	10/24	10/31	
最多日羽数			643	62	90	7，△32	
終認　月日			10/4	10/30	11/15	11/15	
終認日羽数			8	1	22	2，△2	

備考：羽数の前の△は飛行方向が西→東、無印は東→西

表 5　鳴門山の 2016 年春季タカ渡り観察記録

調査期間：3 月 5 日～ 5 月 28 日

観察日数			観察羽数				
3 月	4 月	5 月	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ハイタカ	その他
16	14	17	835	117	2254	15 ▲230	85 ▲3
初認　月日			3/23	4/30	3/5	3/5	
初認日羽数			1	1	124	▲20	
最多　月日			4/2	5/13	3/12	3/20	
最多日羽数			179	38	460	▲37	
終認　月日			5/22	5/28	5/22	5/12	
終認日羽数			6	2	1	▲1	

備考：羽数の前の▲は飛行方向が東→西、無印は西→東

表 6　笠木ケ峰の 2015 年秋季タカ渡り観察記録

調査期間：9 月 12 日～ 11 月 4 日

観察日数			観察羽数				
9 月	10月	11月	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ハイタカ	その他
13	4	2	2347	168	139	13 △8	48 △1
初認　月日			9/12	9/12	9/12	9/22	
初認日羽数			15	3	3	△1	
最多　月日			9/23	9/23	10/12	11/4	
最多日羽数			1617	32	43	9	
終認　月日			10/4	10/12	11/4	11/4	
終認日羽数			1	1	5	9	

備考：羽数の前の△は飛行方向が西→東、無印は東→西

写真 9　海面を泳ぐシロエリオオハム

写真 10　波打ち際で餌を探すミユビシギ

写真 11　帆翔するサシバの群れ

写真 12　ハチクマ幼鳥

表７　鳴門市内各地のタカ渡り記録

観察地	観察日	天気	開始時刻	終了時刻	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ハイタカ	その他タカ
鳴門山	2014．9．21	晴れ	6：40	17:15	1655	19	15		2
四方見	2014．9．21	晴れ	7：10	16:55	1079	38	3		1，△1
四方見	2015．9．23	晴れ	7：00	16:30	1983	76	46		3
星越峠	2014．9．21	晴れ	10:35	17:20	977	62	6		7，△1
星越峠	2014．9．22	曇後晴	7：30	16:20	557	68	16		5
天ケ津峰	2015.10.12	晴れ	7：25	15:00		1	43	1	4
鳴門山	2015．4．9	曇り	6：10	15:00	442		25	▲4	
室	2016．3．13	晴／曇	8：10	13:50			139	▲14	
室	2016．4．2	晴れ	8：05	16:00	328		50	▲12	10
室	2016．5．12	晴れ	8：30	15:45	43	42	11		2
西谷林道	2015．4．12	晴後曇	9：45	15:00	28		25	1，▲17	10
大坂峠	2016．4．2	快晴後晴	9：20	15:00	17		19	▲11	1，▲1
大坂峠	2016．5．14	晴れ	6：45	15:00	5	11			

数観察日には，こちらでも多数渡りを確認した。さらに両観察地点の北側即ち阿讃山脈の瀬戸内側を通過する個体も多数確認した。春季には，さらに市西部の西谷林道（メッシュコード 2440）や大坂峠で観察したところ，それなりの数が各地上空を通過していた（**表７**）。特に小型のタカであるハイタカとツミの数は鳴門海峡の鳴門山および室と変わりがなかった。

８．鳴門海峡域の野鳥

里浦町のボラ山と，ボラ山沖を含む小鳴門海峡以北・以東を鳴門海峡域とし，この地域の陸地と海面および上空で確認した野鳥と外来種・野生化種を拾い出した。四国東北端に位置し淡路島に近接するという渡りが集中する地理的条件とともに，海面，岩礁，砂浜，畑地，湿田，湿原，山林，集落，公園と多様な環境が存在しており，次に記す 116 種の野鳥と外来種・野生化種４種を確認した。ヤマドリ，キジ，オシドリ，オカヨシガモ，ヨシガモ，ヒドリガモ，マガモ，カルガモ，ハシビロガモ，コガモ，ホシハジロ，キンクロハジロ，スズガモ，シノリガモ，ウミアイサ，キジバト，アオバト，シロエリオオハム，オオミズナギドリ，コグンカンドリ，ヒメウ，カワウ，ウミウ，ゴイサギ，ササゴイ，アマサギ，アオサギ，ダイサギ，チュウサギ，コサギ，クロサギ，ヒクイナ，ホトトギス，ツツドリ，ハリオアマツバメ，アマツバメ，ヒメアマツバメ，コチドリ，シロチドリ，チュウシャクシギ，ユリカモメ，ウミネコ，カモメ，シロカモメ，セグロカモメ，オオセグロカモメ，ウミスズメ，ミサゴ，ハチクマ，トビ，チュウヒ，ツミ，ハイタカ，オオタカ，サシバ，ノスリ，クマタカ，フクロウ，カワセミ，コゲラ，チョウゲンボウ，コチョウゲンボウ，チゴハヤブサ，ハヤブサ，サンショウクイ，モズ，ハシボソガラス，ハシブトガラス，ヤマガラ，シジュウカラ，ヒバリ，ツバメ，コシアカツバメ，イワツバメ，ヒヨドリ，ウグイス，ヤブサメ，エナガ，メボソムシクイ，エゾムシクイ，センダイムシクイ，メジロ，セッカ，ヒレンジャク，ギンムクドリ，ムクドリ，コムクドリ，シロハラ，ツグミ，ノゴマ，コルリ，ルリビタキ，ジョウビタキ，イソヒヨドリ，エゾビタキ，キビタキ，ムギマキ，オオルリ，ニュウナイスズメ，スズメ，キセキレイ，ハクセキレイ，セグロセキレイ，ビンズイ，タヒバリ，アトリ，カワラヒワ，ウソ，シメ，イカル，ホオジロ，ホオアカ，カシラダカ，ノジコ，アオジ。外来種・野生化種はコジュケイ，ドバト，コウノトリ，ソウシチョウ。

９．野生哺乳類

２年間の野鳥観察中に，野生哺乳類８種と小型コウモリ（種未確認）を認めた。

ニホンザル（**写真 13**）とは，大麻町および北灘町で比較的多数回遭遇した。キツネは個体数増加で徳島県レッドリストから外れた種だが，鳴門市でもボラ山で親子を認めた。小型コウモリは市の北部，南

部，島嶼部の平地の農耕地，湿原および集落の上空で，日没後あるいは日の出前に活動しており，ハヤブサの狩猟対象にもなっていた。

10. 目録

2014 年 9 月から 2016 年 9 月までの約 24 ヶ月間の観察により，「**別表 1　鳴門市野鳥目録**」に記載した 193 種の野鳥を確認した。番号の左に R を付記した種は，国および／または徳島県のレッドリスト種で，56 種を数える。なお，2014 ～ 2015 年冬季に，大谷川の苔の生えたコンクリート三面張りの流れで確認されたアオシギ（**写真 14**）は，旧版では徳島県レッドリスト種であったが，主に阿波学会調査により観察例が積み重ねられ，改訂版ではリストを外された野鳥である。

過去の鳴門市の野鳥記録としては，前回の阿波学会報告書の 105 種（阿部，1965），鳴門市史の 115 種（鳴門市史編纂委員会，1976）がある。前者記載の 7 種，後者記載の 17 種は今回調査では確認できていない。その理由としては，市史に記載された「旧吉野川河口干潟」が現在は消失していることなどの鳴門市における生息環境の変化と，未確認種の多くは，ウズラ，ヨシゴイ，コノハズク，ヨタカなど近年全国的に渡来数が減少している種やアビ，カツオドリ，ヘラサギなどや元々渡来数が希な種であることが挙げられる。

コジュケイ，ドバト，ソウシチョウ，ヒゲガビチョウ（**写真 15**）は日本鳥類目録（日本鳥学会，2012）に従い外来種とした。コウノトリは 1 例を除き脚に標識が装着されており，豊岡市の野生復帰プロジェクト対象種であることが明らかであり野生化種にも記載した。なお，コウノトリについては，三宅らが特別寄稿として報告する。

さらに別添 CD（PDF ファイル）には，種名の下の行に各種の代表的な記録を，左から西暦年／月／日，個体数，地名，メッシュ番号，地上標高（m），環境または行動の内容，の順に記載した。なお，一部の種では保護目的で地名とメッシュ番号を不記載とした。標高の不記載は 5 m 未満の低地である。

また同様に，野生哺乳類の記録についても「**別表 2　鳴門市野生哺乳類目録**」を作成した。

写真 13　近くを歩くニホンザル

写真 14　水路で餌を探すアオシギ

写真 15　ヒゲガビチョウ

文献

阿部近一（1965）：「鳴門の生物　1 鳴門の野鳥」，郷土研究発表会紀要第 11 号，100 ～ 101 頁.

環境省：「ガンカモ類の生息調査の成果物の提供ページ」.（www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/）

環境省：「渡り鳥の飛来状況　平成 27（2015）年秋～ 28（2016）年春」.（env.go.jp/nature/doubutsu/bird_flu/migratory/ap_wr_transit/index.html）

環境庁自然保護局計画課自然環境調査室（1997）：「都道府県別メッシュマップ 36 徳島県」，自然環境研究センター.

環境庁自然保護局野生生物課（1993）：「日本産野生生物目録 ―本邦産野生動植物の現状―　脊椎動物編」，自然環境研究センター.

中国四国農政局統計部（2015）：「徳島農林水産統計年報　平成

25 ～ 26 年」

中国四国農政局徳島統計・情報センター（2004）：「徳島農林水産統計年報　平成 15 ～ 16 年」，徳島県農林水産協会.

東條秀徳（1996）：「北島町の野鳥」，阿波学会紀要第 42 号，43 ～ 62 頁.

東條秀徳（2006）：「藍住町の野鳥」，阿波学会紀要第 52 号，33 ～ 44 頁.

徳島県（1996）：「徳島県環境資源図（現存植生・土地利用図）」.

徳島県（2015）：「徳島県鳥獣保護区等位置図（平成 27 年度）」.

徳島県県民環境部環境総局自然環境課（2011）：徳島県レッドリスト（改訂版）1. 鳥類，徳島県ホームページ（http:/www.pref.tokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html/）.

徳島県農林水産部林業振興課，（財）日本野鳥の会徳島県支部：「第 7 次鳥獣保護事業における鳥獣生息状況の調査報告書」，12 ～ 25 頁.

鳴門市議会事務局（2014）：「平成 26 年度版　鳴門市の概要」.

鳴門市史編纂委員会（1976）：「鳴門市史上巻」.

日本鳥学会（2012）：「日本鳥類目録改訂第 7 版」.

日本野鳥の会徳島県支部（2003）：「徳島のタカの渡り」.

増谷正幸ほか（1988）：「板野町の野鳥」，郷土研究発表会紀要第 34 号，61 ～ 82 頁.

増谷正幸（1991）：「松茂町の鳥類」，郷土研究発表会紀要第 37 号，53 ～ 76 頁.

別表 1　鳴門市野鳥目録

◎　キジ目　GALLIFORMES

○　キジ科　Phasianidae

1	ヤマドリ	*Syrmaticus soemmerringii*
2	キジ	*Phasianus colchicus*

◎　カモ目　ANSERIFORMES

○　カモ科　Anatidae

R 3	ツクシガモ	*Tadorna tadorna*
R 4	オシドリ	*Aix galericulata*
5	オカヨシガモ	*Anas strepera*
6	ヨシガモ	*Anas falcata*
7	ヒドリガモ	*Anas penelope*
8	アメリカヒドリ	*Anas americana*
9	マガモ	*Anas platyrhynchos*
10	カルガモ	*Anas zonorhyncha*
11	ハシビロガモ	*Anas clypeata*
12	オナガガモ	*Anas acuta*
13	シマアジ	*Anas querquedula*
R 14	トモエガモ	*Anas formosa*
15	コガモ	*Anas crecca*
16	ホシハジロ	*Aythya ferina*
17	キンクロハジロ	*Aythya fuligula*
18	スズガモ	*Aythya marila*
R 19	シノリガモ	*Histrionicus histrionicus*
20	ホオジロガモ	*Bucephala clangula*
21	ミコアイサ	*Mergus albellus*
R 22	ウミアイサ	*Mergus serrator*

◎　カイツブリ目　PODICIPEDIFORMES

○　カイツブリ科　Podicipedidae

23	カイツブリ	*Tachybaptus ruficollis*
R 24	アカエリカイツブリ	*Podiceps grisegena*
R 25	カンムリカイツブリ	*Podiceps cristatus*
26	ハジロカイツブリ	*Podiceps nigricollis*

◎　ハト目　COLUMBIFORMES

○　ハト科　Columbidae

27	キジバト	*Streptopelia orientalis*
28	アオバト	*Treron sieboldii*

◎　アビ目　GAVIIFORMES

○　アビ科　Gaviidae

R 29	オオハム	*Gavia arctica*
30	シロエリオオハム	*Gavia pacifica*

◎　ミズナギドリ目　PROCELLARIIFORMES

○　ミズナギドリ科　Procellariidae

R 31	オオミズナギドリ	*Calonectris leucomelas*
32	ハシボソミズナギドリ	*Puffinus tenuirostris*

◎　コウノトリ目　CICONIIFORMES

○　コウノトリ科　Ciconiidae

R 33	コウノトリ	*Ciconia boyciana*

◎　カツオドリ目　SULIFORMES

○　グンカンドリ科　Fregatidae

34	コグンカンドリ	*Fregata ariel*

○　ウ科　Phalacrocoracidae

R 35	ヒメウ	*Phalacrocorax pelagicus*
36	カワウ	*Phalacrocorax carbo*
37	ウミウ	*Phalacrocorax capillatus*

◎　ペリカン目　PELECANIFORMES

○　サギ科　Ardeidae

R 38	ミゾゴイ	*Gorsachius mizogoi*
39	ゴイサギ	*Nycticorax nycticorax*
R 40	ササゴイ	*Butorides striatus*
R 41	アカガシラサギ	*Ardeola bacchus*
42	アマサギ	*Bubulcus ibis*
43	アオサギ	*Ardea cinerea*
44	ダイサギ	*Egretta alba*
R 45	チュウサギ	*Egretta intermedia*
46	コサギ	*Egretta garzetta*
47	クロサギ	*Egretta sacra*

◎　ツル目　GRUIFORMES

○　ツル科　Gruidae

R 48	ナベヅル	*Grus monacha*

○　クイナ科　Rallidae

R 49	クイナ	*Rallus aquaticus*
R 50	ヒクイナ	*Porzana fusca*
51	バン	*Gallinula chloropus*
52	オオバン	*Fulica atra*

◎　カッコウ目　CUCULIFORMES

○　カッコウ科　Cuculidae

R 53	ジュウイチ	*Hierococcyx hyperythrus*
54	ホトトギス	*Cuculus poliocephalus*
55	ツツドリ	*Cuculus optatus*

◎　アマツバメ目　APODIFORMES

○　アマツバメ科　Apodidae

56	ハリオアマツバメ	*Hirundus caudacutus*
57	アマツバメ	*Apus pacificus*

58　ヒメアマツバメ　*Apus nipalensis*

◎　チドリ目　CHARADRIIFORMES

○　チドリ科　Charadriidae

59　タゲリ　*Vanellus vanellus*
60　ケリ　*Vanellus cinereus*
R 61　ムナグロ　*Pluvialis fulva*
62　ダイゼン　*Pluvialis squatarola*
63　コチドリ　*Charadrius dubius*
R 64　シロチドリ　*Charadrius alexandrinus*

○　セイタカシギ科　Recurvirostridae

R 65　セイタカシギ　*Himantopus himantopus*

○　シギ科　Scolopacidae

66　ヤマシギ　*Scolopax rusticola*
67　アオシギ　*Gallinago solitaria*
68　タシギ　*Gallinago gallinago*
69　チュウシャクシギ　*Numenius phaeopus*
R 70　アカアシシギ　*Tringa totanus*
R 71　コアオアシシギ　*Tringa stagnatilis*
72　アオアシシギ　*Tringa nebularia*
73　クサシギ　*Tringa ochropus*
74　タカブシギ　*Tringa glareola*
75　キアシシギ　*Heteroscelus brevipes*
76　ソリハシシギ　*Xenus cinereus*
77　イソシギ　*Actitis hypoleucos*
78　キョウジョシギ　*Arenaria interpres*
79　オバシギ　*Calidris tenuirostris*
80　ミユビシギ　*Calidris alba*
81　トウネン　*Calidris minuta*
R 82　オジロトウネン　*Calidris temminckii*
R 83　ヒバリシギ　*Calidris subminuta*
R 84　ウズラシギ　*Calidris acuminata*
R 85　ハマシギ　*Calidris alpina*
86　エリマキシギ　*Philomachus pugnax*

○　タマシギ科　Rostratulidae

R 87　タマシギ　*Rostratula benghalensis*

○　カモメ科　Laridae

88　ユリカモメ　*Larus argentatus*
89　ウミネコ　*Larus crassirostris*
90　カモメ　*Larus canus*
91　シロカモメ　*Larus hyperboreus*
92　セグロカモメ　*Larus argentatus*
93　オオセグロカモメ　*Larus schistisagus*
R 94　コアジサシ　*Sterna albifrons*
95　アジサシ　*Sterna hirundo*
96　クロハラアジサシ　*Chlidonias hybridus*

○　ウミスズメ科　Alcidae

R 97　ウミスズメ　*Synthliboramphus antiquus*

◎　タカ目　ACCIPITRIFORMES

○　ミサゴ科　Pandionidae

R 98　ミサゴ　*Pandion haliaetus*

○　タカ科　Accipitridae

R 99　ハチクマ　*Pernis ptilorhynchus*
100　トビ　*Milvus migrans*
R 101　チュウヒ　*Circus spilonotus*
R 102　ハイイロチュウヒ　*Circus cyaneus*
103　ツミ　*Accipiter gularis*
R 104　ハイタカ　*Accipiter nisus*
R 105　オオタカ　*Accipiter gentilis*
R 106　サシバ　*Butastur indicus*
107　ノスリ　*Buteo buteo*
R 108　クマタカ　*Nisaetus nipalensis*

◎　フクロウ目　STRIGIFORMES

○　フクロウ科　Strigidae

109　フクロウ　*Strix uralensis*
R 110　アオバズク　*Ninox scutulata*
R 111　コミミズク　*Asio flammeus*

◎　ブッポウソウ目　CORACIIFORMES

○　カワセミ科　Alcedinidae

112　カワセミ　*Alcedo atthis*

◎　キツツキ目　PICIFORMES

○　キツツキ科　Picidae

113　アリスイ　*Jynx torquilla*
114　コゲラ　*Dendrocopos kizuki*
115　アカゲラ　*Dendrocopos majar*
116　アオゲラ　*Picus awokera*

◎　ハヤブサ目　FALCONIFORMES

○　ハヤブサ科　Falconidae

117　チョウゲンボウ　*Falco tinnunculus*
118　コチョウゲンボウ　*Falco columbarius*
119　チゴハヤブサ　*Falco subbuteo*
R 120　ハヤブサ　*Falco peregrinus*

◎　スズメ目　PASSERIFORMES

○　サンショウクイ科　Campephagidae

R 121　サンショウクイ　*Pericrocotus divaricatus*

○　カササギヒタキ科　Monarchidae

122　サンコウチョウ　*Terpsiphone atrocaudata*

○　モズ科　Laniidae

123　モズ　*Lanius bucephalus*

○　カラス科　Corvidae

124　カケス　*Garrulus glandarius*
125　ミヤマガラス　*Corvus frugilegus*
126　ハシボソガラス　*Corvus corone*
127　ハシブトガラス　*Corvus macrorhynchos*

○　ツリスガラ科　Remizidae

128　ツリスガラ　*Remiz pendulinus*

○　シジュウカラ科　Paridae

129　ヤマガラ　*Poecile varius*
130　ヒガラ　*Periparus ater*
131　シジュウカラ　*Parus minor*

○　ヒバリ科　Alaudidae

132　ヒバリ　*Alauda arvensis*

○　ツバメ科　Hirundinidae

133　ショウドウツバメ　*Riparia riparia*
134　ツバメ　*Hirundo rustica*
R 135　コシアカツバメ　*Hirundo daurica*
136　イワツバメ　*Delichon dasypus*

○　ヒヨドリ科　Pycnonotidae

137　ヒヨドリ　*Hypsipetes amaurotis*

○　ウグイス科　Sylviidae

138　ウグイス　*Cettia diphone*

139　ヤブサメ　*Urosphena squameiceps*

○　エナガ科　Aegithalidae
140　エナガ　*Aegithalos caudatus*

○　ムシクイ科　Phylloscopidae
141　オオムシクイ　*Phylloscopus examinandus*
R 142　メボソムシクイ　*Phylloscopus borealis*
R 143　エゾムシクイ　*Phylloscopus borealoides*
144　センダイムシクイ　*Phylloscopus coronatus*

○　メジロ科　Zosteropidae
145　メジロ　*Zosterops japonicus*

○　センニュウ科　Locustellidae
R 146　オオセッカ　*Locustella pryeri*

○　ヨシキリ科　Acrocephalidae
147　オオヨシキリ　*Acrocephalus arundinaceus*

○　セッカ科　Cisticolidae
148　セッカ　*Cisticola juncidis*

○　ミソサザイ科　Troglodytidae
149　ミソサザイ科　*Troglodytes troglodytes*

○　レンジャク科　Bombycillidae
150　ヒレンジャク　*Bombycilla japonica*

○　ムクドリ科　Sturnidae
151　ギンムクドリ　*Spodiopsar sericeus*
152　ムクドリ　*Spodiopsar cineraceus*
153　コムクドリ　*Agropsar philippensis*

○　ヒタキ科　Muscicapidae
R 154　トラツグミ　*Zoothera dauma*
155　シロハラ　*Turdus pallidus*
R 156　アカハラ　*Turdus chrysolaus*
157　ツグミ　*Turdus naumanni*
R 158　コマドリ　*Luscinia akahige*
159　ノゴマ　*Luscinia calliope*
160　コルリ　*Luscinia cyane*
R 161　ルリビタキ　*Tarsiger cyanurus*
162　ジョウビタキ　*Phoenicurus auroreus*
163　ノビタキ　*Saxicola torquata*
164　イソヒヨドリ　*Monticola solitarius*
165　エゾビタキ　*Muscicapa griseisticta*
R 166　サメビタキ　*Muscicapa sibirica*
167　コサメビタキ　*Muscicapa dauurica*
168　キビタキ　*Ficedula narcissina*
169　ムギマキ　*Ficedula*
170　オオルリ　*Cyanoptila cyanomelana*

○　スズメ科　Passeridae
171　ニュウナイスズメ　*Passer rutilans*
172　スズメ　*Passer montanus*

○　セキレイ科　Motacillidae
173　ツメナガセキレイ　*Motacilla flava*
174　キセキレイ　*Motacilla cinerea*
175　ハクセキレイ　*Motacilla alba*
176　セグロセキレイ　*Motacilla grandis*
177　ビンズイ　*Anthus hodgsoni*
178　タヒバリ　*Anthus rubescens*

○　アトリ科　Fringillidae
179　アトリ　*Fringilla montifringilla*
180　カワラヒワ　*Chloris sinica*
R 181　マヒワ　*Carduelis spinus*
182　ベニマシコ　*Uragus sibiricus*
183　ウソ　*Pyrrhula pyrrhula*
184　シメ　*Coccothraustes coccothraustes*
185　イカル　*Eophona personata*

○　ホオジロ科　Emberizidae
186　ホオジロ　*Emberiza cioides*
187　ホオアカ　*Emberiza fucata*
188　カシラダカ　*Emberiza rustica*
189　ミヤマホオジロ　*Emberiza elegans*
R 190　ノジコ　*Emberiza sulphurata*
R 191　アオジ　*Emberiza spodocephala*
R 192　クロジ　*Emberiza variabilis*
193　オオジュリン　*Emberiza schoeniclus*

＜外来種・野生化種＞

◎　**キジ目　GALLIFORMES**
○　キジ科　Phasianidae
1　コジュケイ　*Bambusicola thoracica*

◎　**ハト目　COLUMBIFORMES**
○　ハト科　Columbidae
2　ドバト　*Columba livia*

◎　**コウノトリ目　CICONIIFORMES**
○　コウノトリ科　Ciconiidae
3　コウノトリ　*Ciconia boyciana*

◎　**スズメ目　PASSERIFORMES**
○　チメドリ科　Timaliidae
4　ソウシチョウ　*Leiothrix lutea*
5　ヒゲガビチョウ　*Garrulax cineraceus*

別表 2　鳴門市野生哺乳類目録

1　ジネズミ［モグラ目（食虫目）トガリネズミ科］
2　ニホンザル［サル目（霊長目）オナガザル科］
3　ノウサギ［ウサギ目ウサギ科］
4　タヌキ［ネコ目（食肉目）イヌ科］
5　キツネ［ネコ目（食肉目）イヌ科］
6　イタチ［ネコ目（食肉目）イタチ科］
7　ハクビシン［ネコ目（食肉目）ジャコウネコ科］
8　イノシシ［ウシ目（鯨偶蹄目）イノシシ科］
小型コウモリ［コウモリ目（翼手目）］

Status of wild birds in Naruto City

TOUJOU Hidenori*, USUI Tsuneo, KASAI Tadashi, SEKI Kenji, TAKAI Masaaki, MAEDA Katsushige, MITSUI Yoshimasa, MITSUI Masao, MIYAKE Takeru, MORI Yoshio and YOSHINARI Hiroyuki.
* 24-77, Sangenyacho-soto, Tokushima 770-8025, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.61 (2017), pp.37－48.